

でとうございます



賀正

「危機意識と改革意欲をともに」

積丹町長 松井秀紀

明けましておめでとうございます。

平成26年の新しい年を、町民の皆さんとともに元気で迎えられることを、大変嬉しく思います。

町民の皆さんには、財政建て直しの長かった道のりを教訓に、「健全な財政の持続」と「行政サービス水準の向上」と「地域の活性化」という当町の3つの共通の課題の克服と両立の大切さの願いに、厳しい郷土の情勢を案じながら、いつも議員の皆さんとともに真剣に耳を傾け、ご協力をいただいています。

そうした町民の皆さんの深いご理解と、温かいご支援に心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年はいセコ・積丹・小樽海岸国定公園50周年の年にふさわしく、豊かな自然と人々の共生のまち、千歳空港から更に身近になる半島先端のまち「積丹町」として、全国に広く紹介されました。

また、神威岬自然公園遊歩道が土砂崩れから約2年ぶりに再開し、岬に多くの人たちが訪れ賑わいを取り戻しましたが、一方では様々な災害に対する防災意識の向上の大切さと、郷土の防災対策の難しさを再認識した年でもありました。

新しく迎えた平成26年は、消費増税、社会保障制度改革など、地方自治体の運営と私達の生活に身近な国の政策に新たな変化が予定されており、自治体の難しい対応が求められる、そんな年になります。また、町内に目を向けると、遅れている美国川河川改修事業の促進と、町道の橋梁・トンネル、町営住宅、水道施設など公共施設の老朽化対策や家庭雑排水処理、防災対策、福祉施設、特別会計等の町政の懸案課題の解決に取り組んでいかなければなりません。

今、私たちは、少子高齢化と人口減少の時代を迎え、自らの市や町や村の課題に対する「危機意識」とその「改革意欲」を、住民と議会と行政が常に共有し、自己決定と自己責任という地方自治の基本理念の下に、住民の英知と力を結集したまちづくりが求められています。

私は、郷土の自然や産業、文化や歴史など様々な地域資源を有効に活用し、町民みんながそれぞれの役割を果たし、そして国や道、民間機関や積丹ファンの方々との信頼関係を大切にしながら、私たちの郷土の多くの課題の一つ一つの克服に弛まぬ努力をしてまいりたいと思います。

希望に輝く新春を迎え、町民の皆さんのご多幸とご健勝を心から祈念し、年頭のご挨拶といたします。

2014年 新年おめ



迎春

「より身近で開かれた議会をめざして」

積丹町議会議長 佐藤盛男

新年あけましておめでとうございます。
年頭にあたり、積丹町議会を代表して町民の皆様にご挨拶を申し上げます。

皆様には希望に満ち、新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、平素から町議会に対し温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、回復の兆しがなかなか見えない不景気の中で、地方が地域の資源や独自の創意工夫を最大限に活かし、存分に力を発揮できる真の地方分権改革実現に向け、重要な時期を迎えております。

国政においては、一昨年の師走選挙により新たな政権が誕生し、順風満帆の兆しも見受けられますが、震災復興や環太平洋経済連携協定交渉などの山積する課題にどう対応するか、国民の厳しい視線が注がれております。1日も早い混迷状況の打破を強く望むものであります。

現在、国の予算編成作業中ではありますが、地方交付税制度を見直す趣旨の結論も出されるなど、財源を地方交付税や国

道の補助金に依存している割合が大きい本町にとっては先きが不透明であり、今後も国政の動向に注視していく必要があります。

本町では依然として少子高齢化と過疎化が急進しており、魅力ある活力あふれた地域社会を実現することが、町政発展を図るための喫緊の課題となっております。

町議会としても町政の更なる発展と町民福祉の向上に向け、全力で取り組んで参りたいと決意を新たにしております。

新年を迎え、住んでいて良かったと思えるまちづくりの実現のため、より身近で開かれた議会をめざすとともに、緊急な課題に応じた様々な政策提言を行うなど、その機能、役割を強化し、適切で効果的な議会運営に努めてまいりたいと考えております。

どうか本年も町議会に対し、一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとつて今年一年が健康で明るい幸せな年でありますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。